

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 洞北中 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

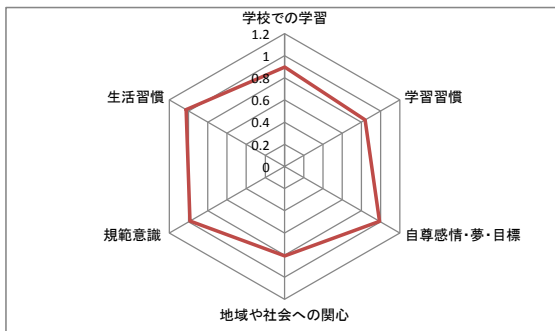
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.0	75	5.4	60	22.6	63	6.1	44	17.3	64
全国	24.3	76	5.5	61	23.8	66	6.6	47	17.9	66

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	「読むこと」の平均正答率は福岡県、全国平均正答率に比べて上回っているが、「話す・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の平均正答率は全国平均正答率に比べてやや下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える	
	努力が必要な問題	伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように書く	
国語B	全体的な傾向や特徴など	全ての領域において、全国平均正答率に比べてやや下回っている。「文章の構成や展開について自分の考えをもつ」「相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く」問題の無回答率が全国より高いが、その他の問題は無回答率が全国より若干低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く	
	努力が必要な問題	全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す	
数学A	全体的な傾向や特徴など	全ての領域において、全国平均正答率に比べてやや下回っている。選択肢から選ぶ問題の無回答率は全国よりも低い傾向にあるが、その他の問題は無回答率が全国より若干高い傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	数直線上に示された負の整数を読み取ることができる	
	努力が必要な問題	一次関数の意味を理解している	
数学B	全体的な傾向や特徴など	全ての領域において、全国平均正答率に比べてやや下回っている。選択式や短答式の問題の無回答率は全国よりも低い傾向にあるが、その他の問題は無回答率が全国より若干高い傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	
	努力が必要な問題	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる	
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的に平均正答数の割合が県・全国に比べてやや下回っている。特に、地学的領域における平均正答数の割合が、県・全国に比べて下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	初期微動継続時間の長さや震源からの距離の関係の知識と音の速さに関する知識を活用できる。	
	努力が必要な問題	植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

「人の役に立つ人間になりたいですか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」「家で、学校の宿題をしていますか」という質問に対し、「そう思う」「ややそう思う」の生徒数の割合が県・全国に比べ若干上回っている。一方、「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」という質問に対し、「そう思う」「ややそう思う」の生徒数の割合は県・全国の割合を若干下回っている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

「話し合う活動」を通して、本校の研究主題「主体的・対話的で深い学びを実現する授業の創造」を実現させ、伝えたい事柄を相手に分かるように表現する力、必要な情報を選択し、的確に処理する力を伸ばす。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家で学校の授業の予習・復習をする生徒の数に課題が見られるため、自学ノートの活用を徹底する。